

社会 第5学年 情報社会に生きるわたしたち

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。日本文教出版の年間指導計画にある「情報をつくり、伝える」に対応した独自案。教材本文・挿絵・問題文は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

本案で見るのは、児童が「確かな情報を伝えるため、送り手はどのような仕事をしているだろうか」に対し、資料の事実と考えを区別して答えられるかである。放送や新聞などの産業は取材・確認・編集を通して情報を送り国民生活に影響しているというまとめを暗唱できるだけでは、本時の目標に届いたとは判断しない。ニュースを作る過程の資料から、取材、情報源の確認、編集、発信の仕事を整理する。同じ出来事でも選ぶ情報や示し方が違うことを比較し、速さと正確さの両方が必要な理由を考える。根拠の指し示し方や説明の修正を見ることで、教師は次に何を確かめればよいかを判断できる。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第5学年〕(4)	(4) 我が国の産業と情報との関わりについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
〔第5学年〕(4)ア(7)	(7) 放送、新聞などの産業は、国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解すること。
〔第5学年〕(4)ア(ウ)	(ウ) 聞き取り調査をしたり映像や新聞などの各種資料で調べたりして、まとめること。
〔第5学年〕(4)イ(7)	(7) 情報を集め発信するまでの工夫や努力などに着目して、放送、新聞などの産業の様子を捉え、それらの産業が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。

単元の目標

放送や新聞などの産業は取材・確認・編集を通して情報を送り国民生活に影響していることを理解し、地図・写真・統計・説明資料と調査記録を扱う技能を身に付ける。「確かな情報を伝えるため、送り手はどのような仕事をしているだろうか」を追究し、根拠を基に考えを表す。自分の記録を見直し、分からないことを確かめながら学習に取り組む。((4))

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①放送や新聞などの産業は取材・確認・編集を通して情報を送り国民生活に影響していることを理解している。 ②地図・写真・統計・説明資料と調査記録について、対象、条件や時期、調べて分かったことを区別して記録している。	①「確かな情報を伝えるため、送り手はどのような仕事をしているだろうか」について、人々の働きや資料同士の関係に着目し、根拠を挙げて説明している。	①情報をつくり、伝えるの学習で生じた疑問について、自分の記録や友達の考えを基に調べ方や説明を見直し、解決しようとしている。

単元の流れ

日本文教出版の年間指導計画の配当「全8時間」を参照。全8時間はcatalog収録の標準配当。以下の各次への配分と本時の位置は本資料の授業案であり、出版社の授業配当の転載ではない。学校の年間計画と観察・調査の進み方で調整する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1～2	○情報を得る場面から問題を立てる。	知①・知②（記録・活動の観察）
第2次	3～4	○取材から発信までの仕事を調べる。	知①・知②（記録・活動の観察）
第3次	5	○情報の確かめ方と編集の工夫を読む。	知①・知②（記録・活動の観察）
第4次	6	○送り手と受け手の立場で比較する。	知①・知②（記録・活動の観察）
第5次	7 (本時を含む)	○確かな情報を受け取る方法を考える。 ○ニュースを作る過程の資料から、取材、情報源の確認、編集、発信の仕事を整理する。同じ出来事でも選ぶ情報や示し方が違うことを比較し、速さと正確さの両方が必要な理由を考える。	思①（個人の説明・記録）
第6次	8	○情報産業の役割と責任を説明する。	態①（記録の見直し・振り返り）

本時の案

本時の目標：「確かな情報を伝えるため、送り手はどのような仕事をしているだろうか」について、資料の事実を示しながら自分の考えとその理由を説明できる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	○前時までの記録から「情報を得る場面から問題を立てる」ときの疑問を取り出す。 ○「確かな情報を伝えるため、送り手はどのような仕事をしているだろうか」 【めあて】調べた事実を使い、自分の考えと理由を説明しよう。 ○一人で予想と理由を書き、調べたい点を確認する。 〈予想される児童の反応〉 ・放送や新聞などの産業は取材・確認・編集を通して情報を送り国民生活に影響しているのか確かめたい。 ・前の記録と比べると違いが見つかりそう。	・答えを先に示さず、児童がどの記録を根拠にしたかを尋ねる。 ・実在の人物について未確認の情報を作ったり発信したりしない。記事や映像を丸ごと転載せず、出典を付けて必要な事実を自分の言葉で整理する
展開 （ 分）	○前時までの観察・調査の記録を使う。以下に示す調べ方を振り返り、本時は問いに関係する記録を比較する。追加の実験・調査は方法を計画し、次時に確かめる。 ○ニュースを作る過程の資料から、取材、情報源の確認、編集、発信の仕事を整理する。同じ出来事でも選ぶ情報や示し方が違うことを比較し、速さと正確さの両方が必要な理由を考える。 ○「どの資料の事実から、そう考えましたか」 ○自分の説明を相手に示し、根拠が同じか違うかを比較する。 ○説明できない記録があれば条件や資料の読み方確かめ直す。 〈予想される児童の反応〉 ・同じだと思ったが、比べるところをそろえると違いがある。 ・この記録だけではまだ決められない。 ・送り手と受け手の立場で比較することで、理由を確かめたい。	・自分の感想と確認された事実を同じ欄に書く子には、発信元を付けた事実欄と考え欄を分ける。情報の速さだけで信頼性を判断せず複数資料で確かめる ・結果に合わない意見も記録へ戻す材料として取り上げ、発言した児童を責めない。 ・比較が難しい児童には記録の対応する箇所を指し示し、まず事実を口頭で説明させる。 ・本時に単元全体の実験や調査をやり直さない。比較する記録を準備し、方法を確認する必要がある部分だけを実物で示す。 ◎思①「確かな情報を伝えるため、送り手はどのような仕事をしているだろうか」について、人々の働きや資料同士の関係に着目し、根拠を挙げて説明している。（個人の記録と説明。交流前後の変更理由を含めて見る。）

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ （分）	○本時の問いへの答えを、根拠となる資料の事実とともに書く。 【まとめ】放送や新聞などの産業は取材・確認・編集を通して情報を送り国民生活に影響している。 ○最初の考えから変わったことと、まだ調べたいことを記録する。 〈予想される児童の反応〉 ・考えが変わったのは、記録を比べたときに違いを見付けたから。 ・まだ確かめていない条件が残った。	・まとめは確認した資料の事実を根拠に書く。資料によって見方が分かれる場合は、作成時期・立場・対象を確かめ、未確認の点を残す。 ・振り返りで分かった支援の必要な点は次時の活動に反映する。 ◎知①（まとめの説明）／態①（記録を見直す過程。発言回数や文章量だけで判断しない。）

板書の構造

上段に「情報をつくり、伝える」と本時の問い「確かな情報を伝えるため、送り手はどのような仕事をしているだろうか」。左側に予想とその理由、中央に実際に調べた事実の記録、右側に事実から考えた説明を置く。中央は条件・時期・対象が分かる見出しにし、比較する記録を同じ高さに並べる。送り手と受け手の立場で比較する際に用いた記録を残し、根拠と説明を線で結ぶ。下段には確かめられたことと、まだ残る問いを分けて置く。発言の多い子の説明だけで仕上げず、個人の記録の違いを残す。

つまずきやすい所と手当て

自分の感想と確認された事実を同じ欄に書く子には、発信元を付けた事実欄と考え欄を分ける。情報の速さだけで信頼性を判断せず複数資料で確かめる

準備するのは、学級で使う実物や資料と、対象・条件・時期を対応させて残せる記録用紙である。教師は事前に資料の出典や器具の働きを確かめ、児童に渡す記録と教師の説明を区別する。実在の人物について未確認の情報を作ったり発信したりしない。記事や映像を丸ごと転載せず、出典を付けて必要な事実を自分の言葉で整理する

本時の評価で説明と根拠が結び付かない場合は、言葉を追加して教え込む前に、比べる対象がそろっているかを見直す。口頭では説明できるが記述が難しい場合は、図と指差しも証拠として残す。

プリントの案

情報をつくり、伝えるの問いと記録

上段は「調べたいこと」と「最初の考え・理由」。中央は対象、条件・時期、分かった事実、確かめた方法の欄。ニュースを作る過程の資料から、取材、情報源の確認、編集、発信の仕事を整理する。同じ出来事でも選ぶ情報や示し方が違うことを比較し、速さと正確さの両方が必要な理由を考える。下段に事実から考えた説明と残った疑問を書く。教材本文・写真は印刷せず、利用できる実物や公的資料の出典を書き入れる。

説明を確かめ直すカード

問い「確かな情報を伝えるため、送り手はどのような仕事をしているだろうか」への自分の答え、根拠の記録、友達の説明との共通点・相違点、修正した箇所と理由の欄を設ける。修正しない場合も根拠を確認した理由を書く。文字を書く代わりに図や口頭説明の記録も使える。

出典：小学校学習指導要領（平成29年告示）。本文は取得済みの文部科学省表V1.2と照合。

（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校社会。評価の観点と記録を用いる考え方を参照。事例の文章は転載していない。

（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_shakai.pdf）／日本文教出版年間指導計画。単元名・配当時数・掲載時期の出典。（https://www.nichibun-g.co.jp/textbooks/s-shakai/download/r6/r6_shakai_nenkei_5.xlsx）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)

https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

